

やまねっと通信 第11号

2016・6

発行: 社会福祉法人やまねっと

〒242-0028 大和市桜森3-4-2 大和泉の森作業所内 TEL 046-282-9018

社会福祉法人やまねっと平成28年度事業計画

社会福祉法人になり、4年目の春を迎えます。ご家族、地域の皆様、その他関係各位の皆様のご協力により、事業を行ってまいりました。7か所の日中事業所からスタートし、やまねっとほーむ林間、やまねっと計画相談支援室、そして今年やまねっとほーむ桜ヶ丘の開所を夏に控えております。また第2期中期計画を進めながら、障がいのある方たちが、地域で働き、暮らしていく、そういったあたりまえの生活ができるよう支援をしております。

平成28年は、障害者総合支援法の施行後3年を目途とした見直しが行われる予定です。障害者の自立や就労を支援するための効率的なサービス提供の在り方、必要となる支援の度合いに応じたサービス提供の在り方、制度を支える財源・利用者負担の在り方等について幅広く検討を行い、制度の持続可能性の確保を図るべきとしています。具体的な案はこれから出てくるでしょうが、おそらくより細分化した報酬体系となるでしょう。当法人としても真に必要とされるサービスを見極め、提供し、質を高めてまいります。

～～今年度は下記の項目に重点を置き活動します～～

(1) 支援向上委員会の設置

一人一人の利用者により良い支援ができるよう、支援力の強化の一環として支援向上委員会を設け、従来の苦情解決委員会機能の他、リスクマネジメント、虐待防止等人権重視の体制づくりを目指します。

- ・ 第三者委員以外に外部の目が入るよう、委員の選定を行います。
- ・ 事故報告を受け、情報の収集・再発防止策の策定を図ります。
- ・ ひやりはっと報告等の情報を収集・分析し、事故を未然に防ぎ、よりよい支援の在り方を追求します。
- ・ 不適切な対応防止のための計画づくり、また発生した場合の検証と再発防止策の検討を行います。

(2) 工賃向上に向けて法人全体で取り組みます。

各事業所だけでなく法人全体で利用者の工賃向上に取り組みます。

- ・ 全体工賃向上会議を開催し、当法人の現状把握・情報収集・製品開発・共同受注・新就労事業形態の検討などを行っていきます。

(3) 共同生活援助事業「やまねっとほーむ桜ヶ丘」の8月開所、および大和のぎく作業所の独立に向け準備を進めていきます。

(4) 各事業所の消防計画を見直し、法人全体としての体制づくりを図り、利用者職員の安全及び地域でできることを検討していきます。

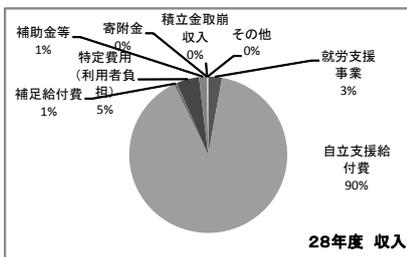
平成28年度 社会福祉法人 やまねっと

予算の概要についてお知らせします(事業活動による収支)

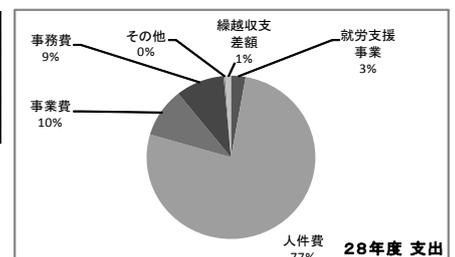
平成28年4月1日より平成29年3月31日まで

※ 単位: 円

収入の部	
就労支援事業	8,422,000
自立支援給付費	271,370,000
補足給付費	2,000,000
特定費用(利用者負担)	13,880,000
補助金等	4,740,000
寄附金	172,000
積立金取崩収入	0
その他	764,000
収入合計	301,348,000



支出の部	
就労支援事業	8,422,000
人件費	231,260,000
事業費	29,331,000
事務費	28,109,000
その他	824,000
繰越収支差額	3,402,000
支出合計	301,348,000



～季節のコラム～

♪あめあめ ふれふれ かあさんが じゃのめで おむかえ うれしいな♪

お馴染みの童謡「あめふり」、皆さんご存知ですよ。入梅も間近、身近にありながら嫌われてしまうことの多い雨。今回のコラムはその雨にちなんだ歌についてです。ところで皆さんは雨に関する歌をどれ位思い付きますか？いくつか思い浮かぶかと思います。子供の頃は傘をさし長靴をはいて深い水たまりに入ったりと楽しかったのに、大人になるにつれ雨は憂鬱なものの象徴になってしまいます。

それは雨が悲しみを形容している事が多いからだと思われます。中でもとりわけ「恋」についての歌のなんと多いことでしょう。人は生きるなかで恋の一つや二つをし、多くは実らないのかもしれませんが。そこで、悲しみを察したかのようにいつしか空から落ちてくるのが涙雨です。涙雨とは悲しみの涙が化して降るという雨（その時の心情によって嬉し涙の雨の場合もありますが、今回は悲しみだけとして捉えます）の事を言います。

涙雨は悲しむ人がいればどこにでも降ってきます。長崎に（長崎は今日も雨だった / 内山田洋とクールファイブ）、大阪にも（雨の御堂筋 / 欧陽菲菲）。はたまた忘れたくても忘れられない恋人を連れてくるように願いを掛けたり（雨の慕情 / 八代亜紀）。このように雨は痛んだ心にそっと降り注いでくるのです。時には雨音が昔を思い出させて辛い気持ちにさせる事もあります（雨音はショパンの調べ / 小林麻美）。でも涙雨の良さは流した涙を隠す事が出来るから。終わりを告げる恋、雨は冷たいけど濡れていたい、思い出も涙も流すから（雨 / 森高千里）。

一方で情熱、喜びも表現しています。傘がなくなつて、雨でびしょ濡れになつたって会いに行かなければと思う大切な人もいます（傘がない / 井上陽水）。そして、最後は喜びの歌を。映画「雨に唄えば」よりジーン・ケリーが雨の中歌うシーンが印象的な SINGIN' IN THE RAIN（雨に唄えば）。

♪雨の中歌っている びしょ濡れで歌っている 何て素敵な気分なんだ 暗く垂れ込める雲に笑いかける 僕の心の中には太陽が 恋の準備は出来ている 嵐のような雲をみんなに追い払わせて 雨と一緒に笑いながら歩くんだ♪

じめじめと過ごしていく季節、雨から連想する歌を口ずさみ、お気に入りの傘を持って雨の日も晴れやかに過ごしたいものですね。

大和さくら作業所

いくま かすみ
伊熊 和美
(非常勤)



大和泉の森作業所

いながき はるみ
稲垣 春美
(非常勤)



大和泉の森作業所

ふどうじ みちよ
不動寺 三千代
(非常勤)



大和泉の森作業所

まつなが つねお
松永 恒雄
(運転手)



大和つきみの作業所

さかちと はるえ
坂本 春江
(非常勤)



新しい職員を紹介します。



大和すずな作業所
もり まこ
森 麻子
(常勤)



大和福田作業所
ひろた としあき
廣田 敏昭
(非常勤)



やまねつとホーム林間
いとう かずお
井藤 一恵
(非常勤)
2階(日)日中対応



大和泉の森作業所
しまだ ともこ
嶋田 智子
(非常勤看護師)



大和みつば作業所
大和福田作業所
しもむら ゆか
下村 由佳
(非常勤看護師)

障害者差別解消法とは平成28年4月1日から施行された法律です。正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」と言います。この法律は障がいのある人もない人も、お互いにその人らしさを認め合いながら、共に生きる社会を作ることを目指しています。

また、「不当な差別」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。とされています。

この法律でいう「障がいのある人」とは単に「障害者手帳」を持っている人だけではありません。年代を問わず、身体障がい・知的障がい・精神障がい・の働きに障がいがある人で、障が日常生活や社会生活に相当な制限
この法律でいう「事業者」は私施設や店舗、NPO 法人等のボランティア活動などほとんど全ての事業が対象です。

知っていますか？
障害者差別解消法

発達障がいのある人、その他の心や身体いや社会の中にある壁(バリア)によって、を受けている全ての人が対象です。たちのような福祉施設だけでなく、公共ティア活動などほとんど全ての事業が対象です。

では、ここで言う障がいを理由とする「不当な差別」とはどのようなことでしょうか？法律では障がいのある人に対して、正当な理由なく、障がいを理由として、サービスの提供を拒否することや、サービスの提供をするにあたり場所や時間帯などを制限すること等、障がいの無い人には付けない条件を付ける事等が禁止されています。また正当な理由があると判断した場合においても障がいのある人に対して、その理由を説明し、理解を得よう努めることが必要になります。「不当な差別」の具体例としては、障がいを理由に受付の対応を拒否する。店内等に保護者や介助者が一緒にいないとお店に入ることが出来ない。といった事が挙げられます。

次に「合理的配慮の提供」とは？障がいのある人から、社会の中にある壁(バリア)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応に努める事が求められています。重すぎる負担がある際には、理由を説明した上で、別のやり方を提案、話し合いをした上で、理解を得よう努める事が大切です。ここでいう「重すぎる負担」の具体例としては、従業員が少ないお店で混雑している際に「車いすを押して店内に案内してほしい」と伝えられた場合です。その際は、話し合いをした上で、負担が重すぎない範囲で別の方法を探す等が考えられます。「合理的配慮の具体例」としては、講演会等で障がいのある人の障がい特性に応じて、座席を決める。意思を伝え合うために絵や写真のカードやタブレット端末などを使う。等が挙げられます。

もし、障がいのある人が、不当な差別を受けた。合理的配慮を提供してもらえなかった場合等困ったことがあれば、地域の障がい福祉課など身近な相談を受け付ける窓口で相談が出来ます。

日本財団よりホンダステップワゴン 8 人乗りが寄贈されました。これからのドライブがさらに楽しくなりそうです。



「平成 28 年熊本地震」募金へのお礼とご報告
このたびの「平成 28 年熊本地震」により、お亡くなりになられた方々へお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。
やまねっとでは、先日皆様から募金のご協力をいただきました。その結果、下記の通りとなりましたのでお知らせいたします。皆様の温かいご協力に心から御礼を申し上げますとともに、被災地の復興が進みますことを心よりお祈り申し上げます。
募金総額 202,600円
送金概要 (特非) 神奈川県障害者地域作業所連絡協議会を通じ、熊本県内の障害者小規模事業所に対する支援金とする。
社会福祉法人やまねっと 理事長 山岸 安志



大和のぎく作業所を知ろう

やまねっとの中で、最も南部にある事業所です。就労継続支援B型で現在9名の方が通われています。



織物



染物



和紙作り



高座渋谷駅の東口から歩いて8分ほどの住宅街にあります。外見は普通の家？なので分かりづらいと思います。昭和60年10月に、織物等の自主製品を製作する事業所として、定員10名でスタートしました。織物や染物を行っていたので女性中心の事業所でした。そして、大和市内の色々なところから通われてきました。今でも2階に織り機があり、週に何回か織りの作業を行っています。

現在は11名の定員で、染物の他に手すきの和紙も作っています。和紙は大和市の注文で「おくやみのことば」として、市民の皆様に届けられます。作業の中心は、おしほりなどを広げて重ねて数える作業、封筒への封入などの受注作業です。皆さん仕事が好きで、作業をしている時は生きいきとしています。織物や染物、トンボ玉製品、一筆箋などのぎく作業所の製品は市内の「スプンティーン」に置かれています。れんげまつりやよさこいまつりなどでも販売しています。

お菓子や小物のクラフトを行う「創作」を月に1回楽しみ、日帰りのレクや旅行(昨年は日帰り旅行で川越に行きました)なども楽しめます。少人数ですが、笑顔の絶えないのぎく作業所です。のぎく作業所の合言葉は「いつも喜んでいよう」です。のぎく作業所の製品に出会ったら是非触れてみて下さい。笑顔が伝わるかもしれません。(所長 山岸)

のぎく作業所の一日常

①出勤

8:40~9:00の間に出勤します。
通勤手段は、徒歩の方や電車を利用されている方、ご家族の送迎で来られる方がいらっしゃいます。

ウエス重ねの作業



②作業

業者さんから洗濯をされているウエスが届け、きれいに重ねて数を数え、紐で縛り袋に入れて納品しています。
その他には封入作業も行っています。
のぎくは自主製品も作っており、織物や染物、トンボ玉の製品などを販売しています。

③昼食

仕出しのお弁当を注文されている方やお弁当を持参される方がいます。
月に2回、お当番さんがボランティアさんと一緒に調理実習も行っています。



④帰宅

15:00に作業を終了し、掃除を行ってからおやつを食べます。
15:30に帰宅になります。



日帰り旅行
"川越"



おもちつき大会



創作活動
"オムレット作り"

さつまいも堀

